

● 泉北ニュータウン・泉ヶ丘エリアの位置づけ

計画の背景

- 令和3年3月に策定した「堺市基本計画2025」においては、2025年度に達成すべきKPIとして「泉北ニュータウン全人口に対する39歳以下の人口割合（30.5%）」を掲げ、ビッグバンと泉ヶ丘公園を一体的に活用し、子どもが創造的に遊び、学び、愉しめる拠点を整備することにより、子育て環境の充実を図ることとしている。
- 同年2月に策定した「堺市SDGs未来都市計画（2021～2023）」においては、2030年のあるべき姿として、未来を担う子どもたちの成長を支え、多様性を認め合う、誰一人取り残さない社会の構築を推進することとしている。
- また同年5月、泉北ニュータウン地域が、将来にわたって「持続発展可能なまち」をめざした「SENBOKU New Design（センボク・ニュー・デザイン）」を策定。その一環としてビッグバン及び泉ヶ丘公園の一体活用に取り組んでいくもの。なお、同年4月に大阪府から、ビッグバン・後背地の無償譲渡及びビッグバン敷地の無償使用を受けている。

ビッグバン・泉ヶ丘公園一体運営の意義

- ビッグバンは、子どもと保護者で遊びと学びを一緒に体験できる施設で、年間約25万人が利用している。一方、泉ヶ丘公園は、駅からの徒歩圏内でありながら、緑豊かな広大な空間が最大の魅力である。
- ビッグバンでは「宇宙」をテーマに、本物の宇宙技術の紹介やJAXA等の宇宙関連団体と連携した取り組みを進め、泉ヶ丘公園では「地球環境」をテーマに自然環境や地形、百舌鳥古墳群に関連する歴史的資源を活かした、フィールドワークや遊びの機会を提供する。
- 両者の強み等を一体的に活かすことで、泉ヶ丘エリアに「新たな価値を創造」し、「子育て・子育て、宇宙技術体験・発信、SDGs・歴史文化の教育の拠点」としてエリアを先導する役割を担うことで、子どもが未来への希望を抱かせる運営をめざす。

ビッグバン・泉ヶ丘公園の将来像

子どもが未来に向かい創造的に学び遊ぶ子育ての拠点に

ビッグバン・泉ヶ丘公園のコンセプト

「宇宙」と「地球環境」をテーマに創造力をはじめ 社会を生き抜く力を育み、そのエネルギーを周辺にも波及させる

子どもたちが協働する

多彩なプログラムにより、子どもたちが主体的に協働する場を提供

子育てを実感できる

保護者が子育てを楽しむことができ、安心して子育てを実感できる場を創出

市民とともに育む

地域の資源を活かした事業・活動を市民とともに育む

エリア全体で新たな魅力を創出

ビッグバンと公園、周辺施設が連携し回遊を創出

● 整備運営方針

ビッグバン【堺市南区茶山台1丁9-1（土地面積98,268㎡、建築面積6,530㎡、延床面積13,016㎡、地上5階、地下1階。交流広場、屋外冒険遊び場あり）】

	テーマ「宇宙」：宇宙を知り未来を創造する力を身につける	
交流広場	■ エリアをつなぐ - 駅前周辺施設との連携によりビッグバンエリアの周遊性を強化 - 交流の場やイベントの企画運営により駅前の回遊性を促進	3 持続可能な開発目標 4 質の高い教育をみんなに
1階	■ 宇宙への旅にいざなう - 無料コーナーとし宇宙に関連した物販を拡充する - いつでも子どもや保護者が気軽に活用できるスペースの提案を民間事業者に求める	11 持続可能な都市づくり 17 気候変動に具体的な対策を
2階	■ 豊かな発想力を育む - 幼児が利用できるエリアや「ものづくりラボ」として、小学校高学年までが利用できる豊かな発想力をはぐくむ体験の場を提供 - 宇宙技術体験をととして、地球環境の大切さを知るプログラムを提供	
3階	■ 子ども主体で交流する - 幼児から小学校中学年までの利用を想定 - 子どもたちの体力と積極的な行動力を養う場を提供 - 現在も人気の大型滑り台などを活用するとともに幼児も利用できる遊具等の新たなサービスを提供	
4階	■ 広い視点を身につける - ワークショップ等の拡充に向けた設備整備、既存施設を活用した収益確保 - 宇宙をテーマにした展示コーナーの設置、シアターのリニューアル、屋外との接続デッキの改修等によりビッグバンと泉ヶ丘公園を一体的に活用し、宇宙・地球を学ぶ環境ワークショップ等のプログラムを提供	
展望広場	■ 積極的な行動力を養う - ビッグバン（屋内）から泉ヶ丘公園（屋外）へといざなう - 屋内ではできない実験や体験プログラムを提供	

泉ヶ丘公園【堺市南区茶山台1丁地内（約5.5ha）、公園種別（地区公園）】

	テーマ「地球環境」：自然の中で遊び、学び、社会を生き抜く力を身につける	
園路	公園全体の周遊が可能となる園路を整備する。これにより、周辺地域へのアクセス性も向上する	3 持続可能な開発目標 4 質の高い教育をみんなに
冒険の森	■ 地球を活かし遊びを創造する 起伏や既存樹木を活用した遊具を整備し、普段体験できない自然の中での遊びや子どもが自由に体を動かせる場とする	8 働きがいと経済成長 11 持続可能な都市づくり
ふれあいの森	■ 人と地球との共存を学ぶ 里山の生態系を観察したり、里山管理の体験、自然の大切さや豊かさを体感することをととして、SDGsや環境保全を学ぶ場とする	15 気候変動に具体的な対策を 17 気候変動に具体的な対策を
陶邑広場	■ 人が生み出した文化を知る - 来訪者が休んだり、子どもが遊具で遊べる空間とする - 窯跡という歴史的資源を継承する場とする	

■ 運営にあたっては、「子育て」、「教育」、「環境」、「歴史文化」などについて、庁内関係部局や宇宙関連団体、大学等教育機関と連携し実施する。

ビッグバン及び泉ヶ丘公園基本計画 概要版 (2/2)

公園内外がシームレスにつながる

- 公園全体の周遊が可能となる園路を整備する。



陶邑広場：人が生み出した文化を知る

- 広場を活用し、窯跡など先人たちの創意工夫をワークショップ等により学ぶ場とする。



ふれあいの森：人と地球との共存を学ぶ

- 遊びで利用した資源を育てていく方法を学び、皆で里山を育てる場とする。



冒険の森：地球を活かし遊びを創造する

- 地域資源を活かして子どもが自ら遊びを考え、それを実践する場とする。



交流広場：エリアをつなぐ

- 屋外イベント等により、泉ヶ丘エリア来訪者の周遊性を高める。



1階：宇宙への旅にいざなう

- 子どもたちの興味を引き出し、可能性を広げる。



2階：豊かな発想力を育む

- ものづくりラボやワークショップなど、多彩な体験プログラムを提供する。



3階：子どもが主体で交流する

- 仲間と協力し、思い切り身体を動かし挑戦する場とする。



4階：広い視点を身につける

- ワークショップ等として、仲間と協力し、目標達成に向けた考え方や取り組む力が身につくような企画を作る場とする。



展望広場：積極的な行動を養う

- 屋外の世界に飛び出し、自然体験をつうじた豊かな発想力を身につける。



事業手法

ビッグバン

- 展示改修は市で実施
- 運営は指定管理者制度を導入

泉ヶ丘公園

- 整備は市で実施
- 運営は指定管理者制度を導入

事業スケジュール

